

月刊 アカンス ニュース

第43号 2000(平成12年).2

「アカンス」とは、古代ギリシャ・ローマに由来し、金沢大学の校章にも使われている植物の名称(和名「ハアザミ」)です。

金沢大学「角間の里山自然学校」 豊かな角間の自然を開放

トップニュース Top News



金沢大学「角間の里山自然学校」では、1月29日に「冬の里山歩き」を開催した。これは、4月からの本格的開校に向け、里山自然学校スタッフ、大学関係者、地元住民などを中心とした勉強会的な企画であったが、教育学部や理学部の学生ボランティア、一般からの熱心な参加者も加わり、総勢約50人もの人が集まった。

当日は、同学校代表の中村浩二教授(自然科学研究科)及び大久保英哲教授(教育学部)から、同学校設立の経緯等の説明の後、約2時間にわたって総合移転第 期用地内の里山ゾーンを散策した。山本茂行氏(富山市ファミリーパーク飼育課長)や地元住民が案内役となり、雪面に残された哺乳類の足跡の見分け方や、里山の管理方法等の解説が行われ、終了後には、今後の活動に向けて意見交換が行われた。

山本氏の説明を熱心に聞く参加者
= 1月29日、総合移転第 期用地内(角間)で



里山ゾーンを歩く参加者
= 同上



雪面に残された哺乳類の足跡の見分け方を習う
= 同上





巻頭言

情報基盤の整備



学長補佐
(理学部教授)
和田 敬四郎

Current Contents誌の主宰者: Garfield氏が巻頭言に書いていたのはもう7~8年も以前のことだったろうか。近い将来印刷されたJournal誌はなくなるだろうと氏は予想されていた。電子メールを使うと世界中どこでも瞬時にほとんどタダみたいな料金で交信できる。電子サービスを始めるJournalもどんどん増え、自分のパソコン上で好きなときに論文を読むことが出来る。自分のホームページに論文や自分の見解を載せることもできる。小さな情報から大容量の情報に至るまで自分の机の上から発信でき、世界中どこにいても誰とでも自由に連絡が取れるすごい時代になったものと驚嘆せざるを得ない。子供の頃に祖父に言いつけられてランプのホヤの掃除をさせられた記憶のある私にとってはなおさらである。電話・テレビ・洗濯機・電気炊飯器と家電機器が普及し、テレビがカラーに変わり、携

帯電話の普及は目を見張るばかりである。一方、金沢大学の情報関連基盤は、まだまだ不十分といわざるを得ない。情報教育も系ができ、これから成果が発揮されるであろうし、インフラも組織もまだまだ十分とは言えない。教務・会計事務の処理、図書館業務に関してもスタートしてまだ日が浅い。利便性の上でも省力化の観点でも情報基盤を早急に拡充・整備して、大学内の情報を一元化する方策の検討が急がれる。今日のような情報化社会で実際に役立つ学生を教育し、社会に送り出すために、また研究上の情報をいち早く入手し、国際的に広く情報交換するためには、情報教育支援・教育のメディア利用による高度化・図書館の電子化といった基盤整備と同時にそれを動かすキャンパス間や部局間の連携を伴った運営母体の構築が必要であろう。

文部省高等教育局専門教育課長が工学教育について特別講演

1月19日、工学部で、文部省高等教育局専門教育課の岩本渉課長を講師に招き、「工学教育の課題」と題した特別講演会が行われた。

講演は、中高生や地域社会に理工系の面白さをアピールしていこうとする「創造性を高めるための教育上の取り組みについて」、近年、勢いを増す研究協力制度や社会人教育に係る「産学連携について」、

教育の国際通用制を目指す制度「技術者教育認定制度(JABEE)について」、安全文化の創造と工学系高等教育機関の倫理教育を提案する「安全教育、技術者倫理について」といった大きな4つのテーマで行われ、会場を埋めるほど集まった参加者は、メモを取るなどして、熱心に耳を傾けていた。



講演する岩本課長(右)
1月19日、工学部秀峯会館で



より良い工学部を目指して集まった参加者
= 同上





期待される大学 - - - - 注目されるこれからの研究協力制度

近年、大学における研究成果を広く社会に還元していくことが強く求められており、大学に寄せられる期待はとても大きい。しかし、研究協力に係る制度はたくさんあり、また度重なる改正等により、実際には非常にわかりにくく、疑問が付きにくい。今春から研究協力課が設置されることもあって、今、盛んに関連行事が行われている。

研究協力制度を教官に説明

1月24日、在職年数の浅い教官を対象に、研究協力制度等の説明会を開催し、約70人の教官が参加した。

説明会は、林勇二郎学長の大学が置かれている状況と研究推進の在り方を中心とした講話で幕を開け、吉田真言庶務部長からは当面する諸課題等について情報提供があった。その後、民間等との共同研究、受託研究、奨学寄附金、科学研究費補助金といった研究協力等をはじめ、国際交流事業、公務員の服務・倫理、セクハラの防止に関して、各実務担当者から説明があった。



集まった教官を激励する林学長
= 1月24日、工学部秀峯会館で

「特許に関するセミナー」を実施

1月26日、様々な方面の“特許”のスペシャリストを講師に迎えて「特許に関するセミナー」が催され、会場は多くの教職員、大学院生などで埋められた。

講演では、出願手順の主な流れや特許法に係る留意点等が具体的に説明され、科学技術振興事業団が実施している「特許化支援事業」やインターネットを通じて特許等を無料で閲覧する「特許電子図書館」の利活用方法など新しい話題も盛り込んだ有意義なセミナーとなった。

また、セミナー後には、個別相談会も行われた。



講師の方々。写真左上から時計回りに、西孝雄氏(西特許事務所)、西村秀敏氏(科学技術振興事業団)、田口正路氏(同)、辻寛司氏(石川県知的所有権センター)

講演に先立ち、あいさつをする畑朋延工学部長
= 1月26日、工学部秀峯会館で



林学長年頭あいさつ “ グローバリゼーションの中での個性化 ”を問う

1月4日、事務局大会議室で、林勇二郎学長の年頭のあいさつが行われ、集まった本部職員に対して、「西暦2000年は新千年紀のスタートであり、21世紀に繋がる節目の年でもある。加速するグローバル化の中、大学は目標を見定め、それに対する方向づけを行う大切な時である。自分達がなすべきことを一人ひとりが真剣に考え、行動することが、個性を持った総合大学の発展につながる」と述べた。



年頭のあいさつをする林学長
= 1月4日、事務局大会議室で



年頭のあいさつを聞く本部職員
= 同上

大学入試センター試験 県内約6,000人が挑む

大学入学センター試験が、1月15・16日の両日、全国623会場で行われ、県内では、本学を含めた5大学を会場に実施された。

本学の7つの試験場でも、約4,500人(大多数が受験する外国語で)の受験生が問題に取り組んだ。

今後、前期日程試験が2月25日に、後期日程試験が3月13日に行われ、入試もピークを迎える。



張り詰めた空気の中、開始を待つ受験生
= 1月15日、文・法・経済学部で



本学への 願書受け付けも始まる

今年から学生部入試課に窓口が一本化され、持ち込みから郵送での受け付けのみに変更した出願手続の様子
= 1月28日、事務局第4会議室で





教育学部 “ 野外教育 ” をテーマに公開シンポジウム

教育学部主催の公開シンポジウム「野外教育の展望と課題 - 市町村教育現場の取り組みと大学に期待される役割」が1月23日、大学教育開放センターで開催され、学内外から約100人の参加があった。

シンポジウムでは、教育学部が平成9年度から辰口町教育委員会と共同で取り組んでいる野外教育「フレンドシップ講座」の試みについて、横山鼓子さん(教育学部 4年)が、「教員を目指す学生にとって多くの成果が得られる」と報告。続いて、辰口町・金沢市・小松市・松任市の野外教育への取り組みについて事例が紹介され、同教育の重要性やその中で本学に期待されている役割等について理解を深めた。



シンポジウムで報告する横山さん
= 1月23日、大学教育開放センターで

ミレニアム新成人 新たな門出、おめでとう!

1月14日、学長室で平成11年度内に20歳を迎える職員を対象とした「平成12年成人祝賀式」が行われた。

関係職員が見守る中、記念すべき2000年の今回、唯一の新成人となった杉本静香さん(附属学校)に林勇二郎学長から記念品と激励の言葉が贈られた。



林学長を前に、緊張しながらも嬉しそうに謝意を述べる杉本さん
= 1月14日、学長室で

“ 田上小学校 ” 角間第 期工事現場を見学

1月31日、金沢市立田上小学校5年1組30名(引率者：新谷貴晴先生)が、雪の降る中、総合移転第 期用地の工事現場を見学した。当日は、同小学校の社会科学習「森林とわたしたちの生活」の一環としての課外授業であり、本学は、澤本清史建築課長らが講師となり、工事中の土を川に流さない方法等の説明を行った。子供たちは、長靴が雪に埋まりながらも元気に聞き入っていた。



雪の中、説明を聞く子供たち
= 1月31日、総合移転第 期用地内で



附属中学校社会科同好会 “岡文化賞(社会部門)受賞

このたび、中学生の優れた文化活動に対して贈られる第20回金沢市岡文化賞(社会部門)の受賞者に本学附属中学校の社会科同好会が選ばれ、1月18日、金沢市民芸術ホールで授与式が行われた。今回の受賞は、「金沢の国際交流について」のテーマで、夏休みから研究し、まとめたものが認められた。



喜びの面々
= 1月18日、金沢市民芸術
ホール(金沢市本町)で



授与式の様子
= 同上

留学生センター 外国人留学生 “和服”を体験

1月6日、日本語・日本文化研修コースで学ぶ外国人留学生(9か国11人)が、日本の文化である“和服”を体験した。和服を着るのは全員が初めてであり、参加した留学生の一人は、「帯の締付けで少し苦しいけれど、日本のきれいな服を着ることができて、とてもハッピーな気分です」と感想を述べていた。

関連の写真もう一枚を裏表紙にカラーで紹介



記念に一枚!
= 1月6日、尾山神社(金沢市尾山町)で



国際交流協定締結大学(その17)

プーナ大学(インド)

[1999.9.1 協定締結]

プーナ(プネー)大学は、インド有数の大都市であるムンバイ(旧ボンベイ)の東南130kmに位置するプネー市に本部を置く総合大学である。

本学との公式な交流は、文学部が同校のサンスクリット・ブラークリット語学科との間に部局間交流を締結した平成9年8月までさかのぼることができる。これに並行して理学部も活発な交流を続けていたことから、この度、本学21番目の大学間交流協定校となったものである。

同校の創立は、本学と同じく1949年であるが、10万人近い学生が学ぶ117ものカレッジは、それぞれ独自の歴史を誇っている。

プネー市は気候の温暖なデカン高原にあり、英国統治下におけるボンベイ管区の夏の首都として、また、今では日本企業の進出による新興工業都市として知られている。



サンスクリット言語学部の建物(同大学パンフレットから)





平成11年度 金沢大学放送講座(テレビ)スタート

知の集積回路:プロジェクト「金沢」(全11回)

大学教育開放センターが企画する「平成11年度金沢大学放送講座」が、北陸放送(MRO)で始まっている。既に第1回から第5回までを終えており、3月31日まで順次続く。

今回の講座は、本学の33名の教官が講師を務め、各専門分野を超えて自然や歴史、文化などの視点から「金沢」を多角的に捉えようとする試みとなっている。今後のスケジュールは下記のとおり。(テキストは無料。申込みは大学教育開放センターまで)

- | | |
|-----------------------|-------------------------------|
| 第6回(2月25日)方言の風景 | 金沢に育まれた方言の伝統と新生 |
| 第7回(3月3日)能・狂言の音風景 | 金沢の能・狂言の伝統が新時代に託す可能性 |
| 第8回(3月10日)祈りの風景 | 浄土真宗の育った宗教的風土と高山右近の流れを引くキリスト教 |
| 第9回(3月17日)匠のいる風景 | 加賀藩から受け継ぐ伝統工芸を現代科学の目で分析 |
| 第10回(3月24日)医と薬の風景 | 加賀藩種痘所から始まる金沢大学の医・薬の伝統と未来 |
| 第11回(3月31日)金沢の住まいと暮らし | 家族と家庭、学校、社会、福祉における地域的特性 |

ふい 報

12月、現職お一人がお亡くなりになりました。ここに御報告するとともに、謹んで御冥福をお祈り申し上げます。



すずきまさくに
鈴木正國 教授
(工学部)
12月24日逝去
享年60歳

放送局
放送日

北陸放送(MRO)
毎週金曜日/午前10時30分~11時50分
平成12年1月21日~3月31日(全11回)



担当講師の面々

編集後記

先日、金沢大学「角間の里山自然学校」の広報取材に行きました。当日は、晴天でしたが、冬山ということで防寒着で身体を包み、角間の第一期移転用地を2時間ほど歩いてきました。タヌキや野ウサギ等の足跡(雪上)の見分け方の講義、また、西側(市街地側)から角間キャンパスを初めて見る等、自然から学ぶ楽しさや新しい発見を

してきました。

今、大学において、広報は重要な役割を持っておりま
す。広く知らせること。これが簡単なようでなかなか難
しいのです。皆様の広報のお手伝いをいたします。情報
をお待ちしております。

(村田)



留学生 晴れ着でにっこり

(関連記事は6ページ)



寒さを吹き飛ばせ!!

外は一面の銀世界・・・
あいにくの極寒の中、屋内プール(角間)
で本学学生サークルの水泳部恒例、寒中
水泳が行われた。



暖を求めて群がる部員



毛布なしでは居られません!

覚悟を決めて、エイッ・・・



平成12年2月18日発行
(原則として毎月1回第3週に発行)

〒920-1192 金沢市角間町
金沢大学庶務部庶務課研究協力・広報係

TEL 076-264-5019
FAX 076-234-4010

本紙の内容、その他本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ 愛称「KUPIS」(キュービーズ)」
(アドレス = <http://www.kanazawa-u.ac.jp>) でもご覧いただけます。
本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール(E-mail) = general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp でも受け付けています。

